

## 終了報告書

報告年月日 2018 年 9 月 14 日

留学プログラム名	KAIST International Summer School Track2 (Research oriented)		
所属学院等 (学院/類/学部/研究科)	生命理工学院		
所属系・コース等 (系・コース/学科/専攻)	生命理工学系		
卒業予定	2020 年 3 月	帰国時の学年	学士 3 年
留学先国	大韓民国		
留学先大学等	Korea Advanced Institute of Science and Technology		
留学期間	2018 年 8 月 13 日 ~ 2018 年 9 月 7 日		
留学中に受給した 奨学金	受給の有無: (有) 無	種別: (給付) 貸与	月額/一括 800000KRW
	奨学金名称: KAIST CAMPUS Asia Scholarship		

### 報告事項

#### ① 留学先大学(機関)の概略

理工系学部がメインの大学で、例えるなら韓国の東工大のようなものです。受験戦争が日本より激しい韓国でソウル大学と肩を並べ、アジアの優れた大学に選ばれるなど、優秀な学生がたくさん集まっています。留学生も多く学部の授業も国語以外英語で行われているようです。

KAISTは大田広域市に位置し、キャンパスの周囲には飲食店街はありますが、KTXの通る最寄りの大田駅までタクシーで20分ほどかかります。そのかわりキャンパスは一つの街のように広く、安くておいしい食べ物や日用品をすべて揃えることができます。また建物は近代的なデザインなのですが、キャンパス内は池やちょっとした山、鳥や猫などの動物など自然が多くとても落ち着いて過ごすことができます。

#### ② 留学前の準備

わたしは今年の春に開催された留学フェアでこのプログラムについて知りました。研究室所属しておらずまとまった時間がとれる最後の夏休みだったので、1ヶ月ほど留学できるプログラムはないかと探していました。はじめは英語圏の大学で探しており、東工大とKAISTが提携していることも知りませんでした。わたしは独学で韓国語を勉強しており一度韓国に住んでみたいと思っていたのと、経済的支援が充実しているということですのでこのプログラムへの参加を決めました。

Campus asia についての情報はホームページにすべて載っており、実際に前年度までに参加した方々の報告記事などもあり、KAIST のイメージが湧きやすかったです。申し込みも自分が何をしたいのか書いただけなので複雑でなく、なにかわからないことがあっても Campus Asia 事務局の方がすぐ教えてくれるので、最初から最後までこまることはありませんでした。

わたしはまだ学部3年なのでまだ東工大で研究室に所属していませんでした。東工大で入りたいと思っている研究室と近い内容かというより、1ヶ月の短い期間だったので1番興味深いとおもった研究室を選択しました。研究室を決めた後は、その研究室の専門分野の英単語を少し予習していったのですが、そのおかげでお世話をしてくれた博士課程の学生とのコミュニケーションが円滑に進みました。

受け入れ許可後は KAIST の留学コーディネーターが VISA 申請書類・寮への入居手続きなどすべて取り行ってくれたおかげで、こちらが複雑な手はずを踏むことはありませんでした。また教授とは研究テーマについてメールで確認をとったくらいで、それ以外の用事で連絡をとることはありませんでした。

韓国語については流暢に話せるわけではありませんが多少勉強していたので、渡航前に実生活で使えるようなフレーズを毎日少しずつ覚えめました。

### ③ 留学中の勉学・研究

わたしのプログラムには授業の履修は含まれておらず、かわりに研究室に所属し研究を行うことと、週に 2 回 2 時間の韓国語の授業を受けました。

研究については事前に論文を読んだだけでは理解できなかったのですが、博士の学生が優しくわかりやすく指導してくれたおかげで徐々にわかるようになりました。こういう目的でこの操作を行うなど、わたしが理解できるよう噛み砕いて教えてくれました。また生物系のラボなので反応の待ち時間が多く、その間に紹介された関連文献や参考書を読んでいました。

言語については KAIST は学部の授業がほとんど英語で行われているので学生はみんな英語を話すことができ、ラボのメンバーとのコミュニケーションで困ることはありませんでした。韓国語の授業も基礎の基礎から始まったので、つまづくことなく毎回すすむことができました。



### ④ 留学中に行った勉学・研究以外の活動

渡航前の 1 ヶ月間、KAIST から東工大に数名の学生が Campus asia のプログラムで来ており、箱根でのフィールドトリップと一緒に参加してからとても仲良くしていました。わたしが KAIST に来てから何度か周辺のおすすめスポットに連れて行ってくれたり、生活で困ったことやわからないことがあったときに助けてくれてとても心強いです。彼らとは休日に慶州へいっしょに旅行しました。電車のチケットや宿など旅行の計画を立ててくれ、有名な場所へ連れてってもらいました。

また日本に興味があるという学生数名が、わたしたちの存在を知って声をかけてくれ、たまに KAIST 周辺を案内してもらいました。キャンパス内でのおすすめのカフェテリアや、日用品をどこで買うと安いかなど教えてくれてとても助かりました。KAIST 内では日本人の存在はとても珍しいらしく、想像以上に暖かく歓迎してくれてありがたいです。仲良くなった 1 人とはわたしが休日にソウルに行った際に待ち合わせてランチを食べたり、学校のある日もディナーによく行きました。わたしは日本語を友達に韓国語をそれぞれ教えあうことのできるいい友達ができとても嬉しいです。

最後の週末にはプログラムと一緒に参加した小松さん・茂田井さんと釜山へ観光しに行きました。わたしたちと同じ campus asia のプログラムで東工大に来ていて、箱根研修で仲良くなった学生の1人がプサン出身だったので、4人で海辺をドライブしました。



#### ⑤ 留学を終えて、自分自身の成長を実感したエピソード

今回の渡航の目標のひとつが韓国人の友達をたくさん作って、自分の知らない異文化を理解することでした。実際に多くの学生と知り合うことができ、色々な話ことができました。韓国と日本は他国と比較して言語・文化・生活が似ていますが、共通している部分やまたは全く違う文化などの話で盛り上がりました。ただ遊ぶだけの友達ではなく、お互いの文化理解をすることができたと思います。

また今回わたしは韓国人が日本に抱くイメージについて新しい発見がありました。文化だけでなく歴史的経緯についても現地の友達と話すことができ、自分が抱いていたイメージが払拭されました。正直なところ、政治面であまり仲がよろしくない印象がありましたが、政治と

国民は別と考え日本人と接している人がほとんどで驚きました。勿論なかには街中でデモが行われたり、日本のメディアですら韓国国民は反日がおおいなどと煽っていますが、実際は表に出す人はおらず自分が抱いていた印象とは違いました。

韓国のひとたちは一見冷たそうに見えますが情に厚く、ひとたび私を仲間と受け入れてくれればまるで家族のように接してくれます。感情表現が豊かで思ったことを正直に言うので、自分も意見の意思表示をするようにしました。今では前よりも思ったことをストレートに表現できるようになったと思います。日本では直接的な言い方は嫌われる傾向にありますが、時にはその方が円滑で効率的でもあります。多文化の良い面をまた1つ吸収できたなと思っています。

## ⑥ 留学費用

このプログラムの魅力の一つが自己負担の少なさです。渡航費・授業料は一切かからず、韓国政府からの奨学金月 8 万円から寮費が差し引かれ、残った分を食費などにあてました。もちろん足りない分は自分で支払いましたが、他のプログラムと比較して経済的支援が圧倒的に手厚くとても助かりました。

## ⑦ 留学先での住居

KAIST の寮はほとんどすべてキャンパス内に併設されており、わたしもそのうちの一つで1ヶ月生活しました。わたしの寮にはキッチンがなく自炊が禁止されていたので、毎食カフェテリアか売店で済ませていました。渡航前に噂でルームメイトは日本人同士にならないと聞いていたのですが、今回このプログラムと一緒に参加した小松さんと同室になりました。なので文化の行き違いなどもなく円滑に共同生活を終えることができました。また寮には売店、洗濯・乾燥機、ウォーターサーバー、休憩室が完備されており、不自由のない生活でした。

## ⑧ 留学先での語学状況

英語については学生もわたしも第一言語ではないのでたまにいきがちはありましたが、わたしは英会話には自信があったので特に困ることはありませんでした。

KAIST のキャンパス内はすべて英語でやり過ごすことができますが、寮の管理人さんやタクシー、レストランなどは韓国語が少し話せると円滑かと思います。わたしも何度か通じないことがあり KAIST の学生に助けをもらうことが多々ありました。

## ⑨ 単位認定(互換)、在学期間

韓国語の授業はとっていましたがほんの数回であったので単位認定は行いません。在学期間は1ヶ月ほどと決まったプログラムでした。

## ⑩ 就職活動

わたしはもともと博士号を取得し研究者になりたいと思っており、今回の経験をとおしてその想いが強くなりました。KAIST の学生は軍隊免除の絡みもあり、東工大より博士課程に進む学生・進学希望の学生が多く、将来について語るなどいい刺激になりました。

## ⑪ 留学先で困ったこと

深刻なことではないのですが、強いて言うならば自転車が手軽にレンタルできると便利だとおもいます。キャンパスがとても広く、寮から私の研究室まで片道 20 分かけて毎日通

いました。一応レンタルの自転車もあったようですが、コーディネーターや KAIST の学生ですら使い方がよくわかっていないようでした。学生はみんなスクーターや自転車で移動しており、もしあったら便利かなとは思いますが、そのほかに困ったことは特に思いつきません。

#### ⑫ 留学を希望する後輩へアドバイス

留学はしたいけど経済面が心配、韓国に興味がある、長い夏休みなにか特別な経験をしたい、そう思っているひとは是非このプログラムに参加してください！韓国は食事・生活習慣ともに日本と結構似ているので、海外に少し長く滞在したいけどはじめは不安な人にはもってこいの国です。英語に自信がなくても所詮はコミュニケーションだからなんとかなります。学ぶことは多くとも後悔することは絶対無いです。